

ONAIR

NO. 123

放送大学通信 オン・エア

発行月 2016年12月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
043-276-5111(総合受付)



CONTENTS

特集：現執行部へ訊く 岡部学長	1
白井理事長	3
特別座談会「現執行部の歩んだ道」	4
研究室だより	9
まなびと学習センターをめぐる	10
若者の集い	12
学習センターサークルだより	13
退任のごあいさつ	14
2015/16年度 開設・改訂科目紹介	16
インフォメーション	24

特集

現執行部へ訊く

これから放送大学はどんどんネット化していくことが期待され、また必要とされています。今迄の経緯と何故そうなのかについて、3月末にご退任を控える岡部学長に紹介していただきました。

寄稿 ①

学長 岡部 洋一

The Open Univ.へ

私が放送大学に採用されたのが2006年でしたから、ちょうど10年ほどになります。この間に、学生さんから見た放送大学の最も変化した部分はネット化ではないでしょうか。

私が採用されたときの募集要項には「放送大学の情報化が推進できること」とありました。当時、私がもっとも推進したかったのが、放送授業に代表される一方向教育をネットによって今のオンライン授業と呼んでいる双方向のものにすることでした。

私個人は教育分野の教員ではなかったのですが、何となくネットの必要性を感じていたのですが、韓国放送大学（KNOU）を見学して、そこが2005年からオンライン化を果しているのを見て、さらに、国際会議に出席するようになり、この分野における日本の後進性を感じるようになりました。しかし、日本の慎重性が仇になり、なかなか実現には至りませんでした。せめて、“いつでもどこでも”を少しでも解消できるかなと始めたのが放送授業のネット配信でした。これも著作権などの権利処理の問題で、ほぼ全部が見られるようになったのは最近のことです。

韓国に遅れること十年の2014年から、オンライン授業はようやくスタートできましたが、その比重はまだまだ低く、科目数も十数科目ですが、これには大いに期待しています。それには教育の質向上に加え、いくつかの理由があります。まず、科目数の制約が撤去できることです。全国の学生に同じ教育を与えることのできる放送授業には最大番組数という制約があります。TVとラジオのそれぞれ1chでは、どう頑張っても500科目ぐらいです。しかし、新しい分野の伸展もあり、科目数は増大傾向にあります。オンライン授業にはこうした制約がありません。TVの科目を作るには、基本、映像中心になります。このため、経費増も、また教員の（精神的）負担も無視できません。

次に学生の利便性が上げられます。放送大学の学生の約2/3が30～60歳ぐらいの働く世代にいます。この方々はいつでもどこでも授業にアクセスできる利便性を必要としているのです。障がいのある方々や、島嶼部、あるいは北海道のような広域



に居住されている方々にもこうしたサービスは必要ではないかと思われます。オンライン授業については、単位認定試験を受けに行かなくてもよいようにできないかという可能性も検討中です。

これまであまり記載しませんでしたでしたが、放送大学は現在、財政的危機に陥りつつあります。国からの補助金が徐々に減ぜられ、この十年ではほぼ30%も減少しました。一方で学生数は若干増えたものの、ほぼ横這いです。このため、一層の学生数増と経費減を行わねばなりません。就労生も含めいろいろなハンディのある方にやさしい、動画の少い製作費の廉価なオンライン授業はこのための重要な解であると信じております。

最後になりますが、ともすれば孤独になりやすい放送大学の学生に対して、実験的に、Facebookに

よるコミュニケーションの場を作ってみました。思ったより大きな効果を上げ、孤独感がかなり解消されること、これがきっかけで、実世界におけるコミュニケーションが育つことなどがわかりました。これも恐らく将来、必要不可欠なツールの一つとなると確信しています。

本学のかつての英文名は英国で立ち上げようとしたUniv. of Air（Airは放送）から取ったものですが、英国では十分な放送権が得られず、止むを得ずネットへ走り、Open Univ.という名称で開始された経緯があります。しかし、今やネットを利用したトップの大学に変貌しました。放送大学も10年以上遅れましたが、放送とネットを最適にブレンドしたOpen Univ.（公開大学）として新たな発展を遂げると信じています。

北岳

梅海新道

三方ヶ岳より立山

八方より白馬山系

焼ヶ岳

剣岳

岡部学長と山
Mountain Photo Library

岡部学長の趣味であり、人生の一部とも言える登山。行く先々の雄大な景色を背景に収めた写真を、今回アルバムからお借りしご紹介させていただきます。

これからの放送大学への期待



30数年前放送大学が開校した頃の大学進学率は25%程度であった。今は、51%位であるから、割合では2倍、人数では1.5倍位になって、大学は大衆化の時代と言われている。しかし、少子・高齢化と都市への人口集中、グローバル化など、社会の変化は速い。大学は急速に収容力を増したものの、一転して18歳人口の急減に直面して大きな変革を迫られている。

放送大学は、いわゆる生涯学習の中で高等教育の部分を担っているが、20歳代から70歳以上まで幅広い学生が在学し、学生の多様な要求の変化に対応する必要がある。

放送大学は高等教育の基盤をなすレベルの高い教養教育の体系を作ることに努めて、成果を挙げてきた。近年は、社会の求める様々な実際的分野の専門知識も多く提供するようになった。しかし、テレビとラジオのメディアを中核に使う限り、年間300科目程度しか授業を開講できない。勿論、全国にある学習センターで開かれる面接授業は、3,000科目以上あって、放送だけでは不足する多様な授業が行われている。もう一つは発達するインターネットの利用である。すでに放送教材については、99%以上がインターネットを通じて、いつでも利用できるようになっていて、2年前からインターネットを中心に用いるネットワーク教材の提供を始めた。ネット授業は、いつでも、どこでもという以外に、双方向性や学生間のコミュニケーションなど、これまでとは異なる教育方法が実現できる。近未来に100科目以上のネットワーク授業を設ける予定で進んでいるが、これは従来の放送授業と面接授業に新しい大きな可能性をもたらしてくれることは確実で、期待される。

このように放送大学は、新旧のメディアと全国の学習センター組織を持ち、累計約9万人の卒業生を擁する強力な生涯学習機関となったわけであるが、大きく変革を遂げようとしている日本の高等教育の中で、キーとなる役割を担っていかなければならないと

考えられる。

少子化と高齢化の進む中で

は、高等教育の一層の普及を計り、レベルの向上に努める以外に、発展的あるいは持続可能な社会を作る方法はない。人類社会が進化するためにはイノベーションが必要と言われているが、イノベーションを生む個人の力とそれを生かすことのできる知的な社会を作らなければ、未来はないということである。いくつかの重要なポイントがある。

1番目は、日本の大学は各々が孤立するのでなくオープンなものとなり、とりわけ地方の大学は、放送大学を含む多様な連携を作って、学生ができるだけ低い費用で秀でた教育プログラムによって学べる状況を作ることである。放送大学は、すでに全国の大学・短大364校と連携関係を持っているが、これをさらに深めて生涯学習環境を作りたい。つまり、大学を卒業した社会人もすでにリタイアした人も、自分の望む環境で必要なこと、興味のあることを学べるようにする。学んだ結果獲得した知識、人脈を通じて社会を活性化して、生き甲斐のある人生を開く。

2番目は、企業や自治体など大学以外の組織と協力して各地域の住民が共有する知的基盤を構成することである。ケーブルTVなど地域の情報メディアとも協調関係を作り、地域の活性化の基礎を作ることである。放送大学は、放送大学のコンテンツや学習センターにおける授業と関連大学の知的、人的資産をまとめる中核となることである。

地域創成ということが盛んに言われているが、その基礎として共通する知的、文化的基盤を創るあるいは確認することが極めて重要であり、これなくして地域創成はない。

放送大学は日本全国に学習センターを持ち、地域の大学とも関係が深く、さらに秀でた多くの在校生、卒業生を持っている。地域創成に大きな役割を果たせることは間違いない。

現執行部の歩んだ道、 そして新執行部に期待すること

岡部 洋一 学長
 來生 新 副学長
 宮本 みち子 副学長
 吉田 光男 附属図書館長
 岡田 光正 教育支援センター長
 司会
 小寺山 亘 副学長



(左から)小寺山 亘副学長、來生 新副学長、岡部 洋学長、
宮本 みち子副学長、吉田 光男館長、岡田 光正センター長

岡部学長を中心とした現執行部は2011年4月より放送大学の運営を担ってき

ましたが、2017年4月に新執行部にバトンを渡します。そこで現執行部の先生方にお集まりいただき、6年に及ぶ活動を振り返るとともに、新執行部に期待することなどを、小寺山副学長の進行のもとお話しいただきました。 ※本文中は敬称略とさせていただきます。

学生の多様なニーズに応える オンライン授業

小寺山 それでは始めたいと思います。現執行部は『アクション・プラン2012』を策定し、〈卓越した教育型大学を目指す〉〈多様な学生の多様なニーズに応える〉の2つのマスタープラン達成に向けて様々な施策を一丸となって行って参りました。今振り返ってみてその成果をどのようにお考えですか。

岡部 2つのマスタープランを柱に10の具体的なアクション・プランを設けました。その中の、〈カリキュラムの改善〉は「新カリキュラム施行」に、〈大学院の充実と質保証〉は「博士後

期課程開設」に結実するなど、一定の成果は出せたと思います。中でも〈電子媒体による学習支援の充実〉については「オンライン授業開始」によって地理的・時間的制約を抱える学生のニーズにかなりの部分で応える仕組みができました。ただ、プランごとに精査すればまだまだ改善の余地はあると見ています。

來生 オンライン授業が始まる前までは、放送によ

る科目提供には絶対的な制約がありました。限られた1日の放送時間の中に45分の授業を組み込む訳ですから。この枠がある限り学生の多様なニーズには応えられなかった。オンライン授業は、その枠を広げ学生のニーズに弾力的に対応しうることを示すもので、現執行部が実現した大きなポイントの一つだと考えます。もちろん、その拡充など仏の中に魂を入れる作業は鋭意進めねばなりません。

宮本 オンライン授業によって可能性がたくさん見えてきました。放送大学には多くの印刷教材やすでに閉講になったものも含めて多くの講義が膨大な財産として残っています。こういう眠っているものを再活用したり、或いは現役の講義についても例えば学部講義を修士課程で使うなど、オンライン化によっていろいろな組み合わせが可能になります。発想の転換と言いますか、自由度が広がった。來生先生の言われる「仏の中に魂を」ができれば、放送大学の今後の発展に大きく寄与するものと思います。

吉田 〈多様な学生の多様なニーズに応える〉ために様々に努力してきましたが、その連続が、つまり〈卓越した教育型大学を目指す〉方向そのものが、14年



の「博士後期課程の開設」に結実したと考えています。また、15年のオンライン授業開始もその延長にある一つの成果で、いつでも手許の機器で授業を受けられる、必要なものを必要な時に引き出せるなど、学習機会を増やし学習効果を高めました。まさに放送大学が標榜する「いつでもどこでもだれでも」をさらに進めるものと考えます。

岡田 オンライン授業は、学生自身がアクセスし、一人ひとりのペースに応じて授業を受けられるという点で、多様な学生の学びにとっても向いています。そこでもう一步進めて、この学生の多様性とオンラインの双方向性という長所をもっと融合できないか。例えば、学生には数学の得意な人も不得意な人もいます。ならば前者が後者に教えるといった、学生同士の学びの場がオンライン上でできないか。eラーニングサイト「自己学習サイト」の中にそんな場を、という話も出ていますので、次の執行部に大いに期待したいと思います。

権利処理フリーで、 インターネット配信の拡充を

小寺山 オンライン授業に加え、「BSデジタル放送開始」など、この執行部は放送大学30余年の歴史の中で最も大きなメディアの変動に立ち会いました。

岡部 学生の70%が利用している放送授業のインターネット配信も大きなファクターです。12年には携帯端末への配信も可能になりました。

小寺山 インターネットには国境がないため、国際展開も視野に入れることができますが、著作権の問題などとてもナーバスな問題が付随してきます。

岡部 放送大学の学生を視聴者に限っても、その権利処理にはそれなりの費用がかかります。そもそも配信自体困るというものもある。こういう制約の多い文化遺産的なものを扱う分野の先生に、権利処理フリーにできないかと相談したら、その可能性のあることが分かりました。これを範にもっと多くの科目をネット配信できればと思っています。

小寺山 権利処理という障壁が低くなれば、過去の放送授業もアーカイブ化して配信できます。さて、放送大学は13年に創立30周年を迎えました。吉田先生は『放送大学30年史』の編纂に当たられ、さぞやご

苦労があったとお聞きしています。

大きな転換点となった「創立30周年」、 「教育支援センター改組」、 「博士後期課程開設」

吉田 いえ、30周年という記念すべき場に立てて光栄だったと思っています。30周年の記念キャッチフレーズは、学生さんが作った「学ぶ。世界が変わる。」でした。放送大学で学べば、これまで見てきた世界が変わる、そして自分自身の内部の世界も変わる—このフレーズには放送大学の役割と自分を知的に高めたいという学生一人ひとりの夢が凝縮されています。そこで、この理念を『30年史』に込めようとしたのですが、基礎とすべき過去の『10年史』『20年史』はその視点が十分とは言えず、新たな構想のもとでの作業となりました。その際に大きな壁となったのは史料がなかったことです。



吉田 光男
附属図書館長

事務方をはじめ多くの方々のご協力を得て何とか集め、ようやくまとめることができましたが、30年の歴史を礎にこれからの新しい時代を創造していく、という決意を高らかに宣言できたと自負しております。

小寺山 10月に開催された記念式典は、政府関係者にもご臨席いただき大変華やかなものとなりました。学生の皆さんもさぞ誇りに思われたのではと考えます。ところで、同年には教育支援センターが発足しましたが、その経緯をご説明いただけますか。

岡部 09年3月、放送大学と同じ敷地にあった文科省所管のメディア教育開発センター（NIME）は、整理・合理化の対象となり廃止に。折しも、放送大学ではICT活用の重要さが認識されつつあり、それならば、とICT活用・遠隔教育センターを作ってNIMEの業務を移管、eラーニングの研究をされていた先生方も全員そこに入っていた。それが13年の情報コース、情報学プログラム設置につながります。

来生 ICT活用・遠隔教育センターができた当初はNIMEの研究体制がまだ残っており、放送大学におけるICT活用と必ずしも直結していませんでした。そこで岡部学長の、放送大学の教育に資するものを、の号令のもと、13年の「教育支援センターへの改組」

に至ったのです。そういう方向転換の中でオンライン教育の整備体制が整い、15年のオンライン授業開始につながりました。

小寺山 オンライン授業開始につなげたという点では、教育支援センターの改組も大きな転換点です。岡田先生、当時を振り返ってみていかがですか。



岡田 オンライン授業を始めなければいけないという時にセンター長を拝命しましたが、幸いなことにNIMEから来られた先生方は情報工学のプロで、オンライン教育立ち上げに必要な知

見を十分お持ちでした。ですが、何しろ初めての経験です。ご担当の來生先生からは、走りながら考えろ、というようなご指示もあったような、そんな大変な日々でもありました。おかげさまで、人並みのオンライン授業はできたと思いますが、せっかくプロの先生方が集まっておられます。その専門性をもっと活用し、そして学生の反応を見ながら、目標である世界に冠たるオンライン教育を打ち立てたい、と思っております。

小寺山 翌14年のエポックとして「博士後期課程開設」があります。こちらは吉田先生が副学長として奮励されました。ご苦労などお聞かせください。

吉田 いちばん難しかったのは、文科省の説得でした。一般大学は省内の高等教育局の理解を得て博士課程開設へ歩を進めますが、放送大学はその前に生涯学習政策局の理解も得なければなりません。その両局の理解を得られたのは、日本社会における様々な課題を解決する道筋を、放送大学30年の実績として示せたことだったと思います。もう一つは、学内の問題です。当時、そもそも通信制の大学でできるのか、と運営や教員配置について先生方の十分な賛同は得られていませんでした。議論を重ね、放送大学の目指す博士課程の姿に共通の理解を得られましたが、この議論の甲斐合って2つの点で特色ある博士課程になりました。一つは、放送大学には社会人を対象とした双方向性指導の蓄積がありますが、博士課程においても、教員が学生の抱える地理的・時間的制約等の障壁を乗り越えようと一致協力して学生の学びを支えていること。もう一つは、他大学院のよう

に専門の中に閉じこもるのではなく、学部や修士課程で培った幅広い教養の上に専門分野を深め地域リーダーの育成につなげるという、放送大学ならではの目標を持っていた点です。なお、博士課程に入学された学生のプロフィールを拝見すると、地域或いは職場のリーダーとしての基礎的能力をお持ちの方、またすでにその活動をなさっている方々が、さらに自分を深めようとされており、より質の高いリーダーを養成できる博士課程になったと思っています。

小寺山 他大学では博士課程の定員割れも少なくありません。放送大学では定員の数倍の応募があるようですが、現在ご担当の宮本先生、いかがでしょう。

宮本 第1期生は定員の20倍、2・3期生は10倍前後と高い倍率で推移しております。学生はただ今37名。その6割が放送大学出身者、残り4割は他大学や海外の大学出身者で、職業別では教員を筆頭に公務員、会社員、自営業と多彩です。吉田先生のご指摘通り、他大学院のように非常に狭い分野に特化した研究者養成機関としてではなく、リーダー養成を目標にスタートしましたが、それが具体的にどういうカタチで進められているか、と申しますと、例えば学生は入学して半年間、基盤研究科目特論を履修します。この特論では、自らの専門テーマに沿った教員を中心に隣接分野の教員も総出で指導に当たります。これを15コマ行うことによって、学生は自らの狭い専門分野ばかりではなく隣接分野の専門的知識をも得られ、広い視野を持った社会人研究者への第一歩を踏み出すことができます。おそらくこういう幅の広い教育を施す博士課程はそうないのではないのでしょうか。この複数教員による指導は、学生を囲んで互いに自分の研究情報を交換し合う中で、時には真剣な議論にまで発展し刺激し合うというメリットを教員にもたらししました。この博士課程開設によって、さらに専門知識を身につけたい修士の学生も増えており、また博士を諦めていた社会人たちが放送大学という機会を知ることによって、これからも入学希望者は多いと見込んでおります。なお、ただ今1期生は博士予備論文審査へと進んでおります。3年間を通して改善すべき点もいろいろとあります。それらを整理



宮本 みち子 副学長

して改善策を立て、今後に活かしたいと考えています。

岡部 ひと言加えさせていただくと、博士課程開設は、学部や修士の学びについても、そのゴールはどのようなもので、そのためにどのような教育をしたらよいか、を見直す良い機会になりました。その意味で全学的に教育改革が進んだと考えています。

小寺山 将来、歴史を振り返った時、博士課程開設が放送大学にとって大きな転換点だった、と言えるよう、今後の発展を新執行部に委ねたいと思います。さて、現執行部での集大成というべきものが16年4月の「新カリキュラム施行」です。その産みの親であります來生先生からお話いただけますか。

ヨコからタテへ、 「新カリキュラム施行」へ

來生 教養学部単一である放送大学では、カリキュラムを考える際、教養をどう捉えるか、が常に問われます。そして、教員一人ひとり教養に対する思いが違う。といってそれぞれの思いに従ってバラバラに教育するのではなく、大学組織として制度として教育しなければならない。この相反する課題を、教員一人ひとりの多様な思いをどこで集約し、カリキュラムにどう反映して解決するか——執行部の当初からの課題でありました。その議論を重ねる中で進むべき方向が見えてきた。前カリキュラムは教養を学際的な視点で捉えようとする、割り切って言えばヨコの広がり重視するもので、それはそれで今日的な意味を持つのですが、科目名を見た時に、果たして何の知識の修得を目指すものか、一般大学の科目名とあまりにかけ離れていて判然としないものもありました。一例を挙げると、「国際法」という確固とした学問が放送大学では「地球環境と法」という科目名になる。確かにヨコに広がることは大事ですが、一定期間に効率的に知識を摂取するなら、ある程度タテ軸をきちんとした方がよい、軸がきちんとすることでヨコの広がりもより必然的なものになる、と考えたのです。カリキュラムは運用する中でどうしても制度疲労が起きます。ここはヨコからタテへ少し舵を切った方がよい、という結論に至りました。ところがここからが大変でした。教員一人ひとり一家言をお持ちで、この方向でのご理解を得られるまでに時間がかかっ

てしまいました。

宮本 前カリキュラムはヨコの広がりがある分、学生にとっては選択の幅がありました。逆に言えば、好きなものだけを取るつまみ喰いの傾向があったことは否めず、時間とエネルギーをかける割には知識がきちんと頭に入らない、散漫になる、という側面もありました。新カリキュラムは、専門性をタテ軸にして大系的に深め、その軸を中心に学生の問題関心に従って教養をヨコに広げられるという点で大きな改革であったと思います。

岡部 私も、新カリキュラムによって体系的に学びやすい仕組みができたと考えています。ただ、カタチは作ったが全ての科目を切り替えるには時間がかかります。そこは新執行部にお願いすることになりますが、このような大きなシステム改変を行うと、どうしても損をする人が出てきます。学生の皆さんには新カリキュラムのねらいをご理解いただいた上で、移行をお願いしたいところです。

小寺山 在籍中の学生は前カリキュラムのままで卒業することも可能ですが、新カリキュラムはベストなカリキュラムだと考えますのでぜひご活用願いたいと思います。さて、最後のテーマへ。放送大学は日本の公開大学としてその特色を強く打ち出しておりますが、日本の大学のブランドイメージは残念ながら偏差値によるところが大きく、なかなか放送大学の認知度は向上しません。皆さんはどのようにお考えでしょうか。



小寺山 巨 副学長

21世紀型教養の提供で、 放送大学のブランド構築を

岡部 世間では未だに某放送局の一部だと思われる人もいて、一朝一夕には解決しない問題です。正しいブランドイメージが浸透して、学生数がどんどん増えてくれるとよいのですが…。ただ、平均して学生数を減らしている日本の大学の現状を考えると、微増ですので善戦しているとは言えます。

小寺山 人口が半分ほどの韓国や英国の公開大学は、放送大学の倍以上の学生数を擁していますから、相対的に4倍ほどの開きがあります。何らかの努力をす

ればまだまだ学生数増大につながります。

來生 15年に放送大学の将来に向けた改革ビジョンをとりまとめましたが、その際にいちばん意識したのは、生涯教育を前提とした教養とは何か、ということ



でした。年齢も違えば職業も違う。人生のそれぞれの局面で抱える課題も違う。その多様性に応える教養とは何か。教養の概念は歴史の中で変遷するもので、自分の課題を解決する能力を養

う実学的なものが21世紀型の教養とすれば、これまでの古典的教養と融合することで、放送大学ならではの新しい教養を提供できるのではないかと、そう考えました。そのイメージを広く社会に発信し、そのための教育を充実させれば、迂遠ではあるが放送大学のイメージを高め、学生増につながると思います。

宮本 放送大学では学生の半数以上がリピーターです。この方々は若い時から高齢になるまで放送大学と共に人生を歩まれている。その人生の時々で課題があり、それを解決するために学びを必要とされている。そのニーズに応えるのは、自らのキャリアを積み上げるための教養であったり、生きるうえでの心の拠りどころとなる教養であったりする訳ですが、來生先生が言われたように、従来型の教養に囚われず21世紀型教養も提供できれば、放送大学の意義はより一層高まるのでは、と考えます。

吉田 放送大学ではいわゆる教養系の科目と実務・資格系の科目がありますが、この二つは対立するものではなく相互補完的に作用し合うものです。人類が過去から蓄積してきた叡智を基礎に、今度は実社会の中に活かしていく、或いは実社会の中で起きた課題をもう一度自分の中に投げ返す。そうすること



で新たな叡智が加えられていく。こういう教養のあり方は、21世紀の大学のあるべき姿を示唆しており、放送大学の教養教育を自信と自負を持って進めていくことが、新しい教育を生み出す力になると思います。

小寺山 岡田先生、教育支援センター長のお立場からどうお考えですか。

岡田 教育支援センターでは今オンライン授業をメインに学生をサポートしておりますが、運営も授業も成績もオンライン上だけで済ませてしまうのはあまりにもったいない、との思いもあります。放送大学には放送もあれば学習センターもある。私は学生に、1、2回はTVで受講してみなさい、とよく言います。TVにはTVの良さがある。学習センターでの面接授業に出かけ、教員の話に対面で耳を傾ける。理解できないところは直接教員に聞いてみる。或いは学生同士で学び合う。それはそれで得難い体験です。その上で、足りないところをオンラインで補う。放送大学は、他の公開大学と違いたくさんのチャンネルがあり、そのどれもが魅力ある学びです。それらを複合的に組み合わせて効率よく教育を提供できれば、放送大学は、もう一度言いますが「世界に冠たる」公開大学になると信じております。

小寺山 私は学習センターの担当として、地元大学の先生に面接授業の講師をお願いする機会がありますが、今忙しいからと断られることが多い。でも、1度お招きしたら、学生さんの目の輝きが違う、だから次もぜひ呼んでほしい、と。そういう熱気あふれる面接授業を一人でも多くの学生に受講していただきたいと考えます。最後に、岡部学長、総括を。

岡部 私たち執行部は、6年間、様々な施策を打っていろいろな骨格を作って参りました。が、残念ながら肉付けまで十分に行う時間がなかった、というのが本音です。一例を、ただ今お話に出た学習センターについて挙げれば、一方向になりやすい面接授業には必ずディスカッションの場を学習センターが主体となって設ける、とかの肉付けもできたのではないかと。そのような、私たちがやり遂げられなかった肉付けの部分は新執行部に委ねたいと思います。学生の利便性と教育効果を高める努力を続けていけば、学生数も増大するのではと期待しております。

小寺山 貴重なお話をありがとうございました。

複雑な生活問題の解決には血の通った政策と当事者目線のタフな実践が必要である

生活と福祉コース・生活健康科学プログラム 教授 ^{やまだ} ^{ともこ} 山田 知子

私の研究関心は、生活困難に直面している高齢の人々（とりわけ女性）の生活問題の把握と解決のための社会的方策の検討です。社会変動が個々の生活をどのように不安定にさせるのか、社会福祉関連施策やサービスはきちんと機能しているか、不全に陥っていないか、問題の解決のためにどのような施策と実践が必要か、実証的に明らかにしようとするというのが私のスタンスです。経済グローバリゼーションのなかで世界は複雑化し、ますます激しい競争社会になっています。現代の生活問題は、表面的な雇

用政策や自助努力を強調するだけでは解決できなくなっていることは明らかです。失業や不安定な雇用形態は経済的困窮をもたらし、病いと障がい絡むとより一層生活問題は深刻化します。底にあるのは、排除、荒廃と自棄、寂寥であり、血の通った社会福祉政策が必要です。当事者目線のタフな福祉実践も同時に求められています。社会福祉の研究は、社会をクールにみつめ、改革の目を持つこと、そして当事者とともに実践を積み重ねながら改革の道筋を考え、行動することが大切だと思います。実践に裏打ちされた実証的な研究は途方もなく時間がかかりますが、生活困難に直面する人々に寄り添い、社会発信型の研究を手掛けていきたいと思っています。

シヨンのなかで世界は複雑化し、ますます激しい競争社会になっています。現代の生活問題は、表面的な雇

環境と福祉のまちづくり調査で訪れたベルリンにて



初等中等教育のICT活用、情報教育を視野に入れた授業研究を追究して

教育支援センター 情報コース・情報学プログラム 教授 ^{なかがわ} ^{ひとし} 中川 一史

自身の研究テーマとしては、全国の小中高等学校特別支援学校や自治体に関わりながら、国語科教育におけるビジュアルリテラシーの研究（特に、思考ツールとしてのマッピングが対象、国語科の領域の検討）、デジタル教科書活用の実践的研究（特に、タブレット端末環境で活用する学習者用デジタル教科書が対象）、協働的な学びを促すアプリ・ソフトの開発・評価などです。

現在、担当教員として9名の大学院（修士課程）と、副査として1名の博士課程院生を受け持っています。もちろん、私の研究テーマにかかわらず、各自のやりたい研究を進めていただき、それを支援しています。大学院生の研究テーマは、「理科教育において児童の粒子概念形成に役立つデジタル教材の開発」「小学校児童の『情報の科学的な理解』の向上に向けた教材の開発」「映像テキストと言語テ



情報学プログラムのゼミメンバーと

キストを組み合わせた『フォトポエム』の創作による、児童の認識力の高まりに関する研究」「ホワイトボード上に議論を外化することがグループ全体の理解に及ぼす効果」「協働学習における教師の指導方略における研究」「授業での話し合い場面における聞き手の能力育成に関する研究」「正統的周辺参加論からの学校教育の検討」など、多岐に渡ります。ただ、大きな流れとしては初等中等教育のICT活用、情報教育を視野に入れた授業研究を追究し、日々、切磋琢磨しています。



まなび〜とめぐり♪

全国学習センター学生レポート！



石川学習センター

石川学習センターは金沢工業大学のキャンパス内にあり、同大学学生と社会人が共に学ぶ「共創教育」の試みに放送大学の学生も参加しています。天窓から光が降り注ぐロビーでは、休憩を取りながら学生同士楽しくおしゃべりしたり、意見交換をしたりします。壁には絵画や写真など学生達の作品が飾られており、文化交流の場にもなっています。



談話室

新聞を読んだり食事やおしゃべりを楽しんだり、ここは学生たちの交流の場所になっています。壁面には歴代の卒業式記念写真が飾られています。いろいろな人生、いろいろな学び方。まなびーは何を学びたい？

石川

石川学習センター



学生リポーター
松橋 拓之さん

2016年4月に入学、学位の取得を目指しています。隣接する金沢工業大学のライブラリーセンターを利用できること、様々な年代の方と学べることに魅力を感じています。もちろんまなびーにもね！



鹿島 正裕 正長



図書室・視聴室

図書室はいつも受付の方が笑顔で出迎えてくれます。静かな環境で集中して勉強できるので、私のお気に入りの場所のひとつです。視聴室では学生はパソコンを利用して視聴学習することもできます。



佐野浩祥先生(客員教員)講演会

重要文化財喜多家で佐野先生による公開講演会が行われました。テーマは「地域で稼ぐ観光」、地域の方からも多数の参加があり、活発な意見交換が行われました。ボランティア頼みの観光に限界を感じた半面、マニアックな観光に可能性を感じました。

北国街道野々市の市ブース

今回初めて、地元の北国街道野々市の市に放送大学も出店しました。ブースには大勢の方が訪れてくださり、放送大学をPRすることができました。まなびーも応援に駆けつけてくれて、子供たちに大人気でした！



野々市市
公式キャラクター
「のっぴ」と。

放送大学のイメージキャラクター、まなびーが、2つの学習センターにお邪魔しました。そして、各学習センターに所属する学生の方に、その学生生活の一部を見せてもらいました。



まなびーは2008年9月に生まれた放送大学のイメージキャラクターです。「あなた」の心に学びを届ける伝書鳩をイメージしています。命名の由来は、放送大学で学び、未来への夢を広げる鳩。「ピー」は鳥の鳴き声、平和のピース。キャラクターデザインは、漫画家この史代氏(2001年放送大学卒業)です。



熊本学習センター

熊本学習センターは熊本大学黒髪北キャンパスの熊本大学附属図書館に隣接しています。キャンパス内は木々が多く、赤門からセンターに向かう通学路では四季折々の景色が楽しめます。



面接学習

月に数回、所長と客員教員の先生方による各専門分野やテーマに沿った講義として、「面接学習」が行われています。「面接学習」は放送大学学生であればどなたでも無料で参加でき、多くの学生が共に学び、知識を深める場になっています。

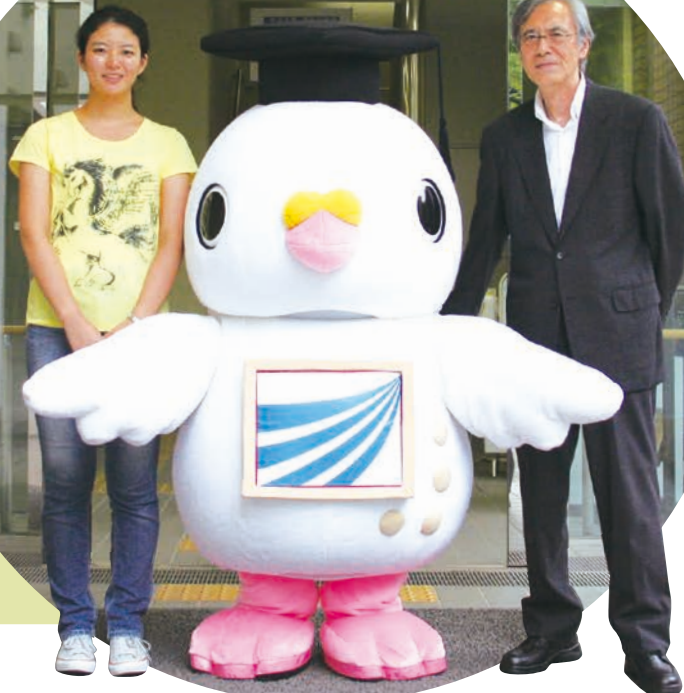
熊本

熊本学習センター



学生リポーター
福島 理沙さん

2013年に情報コースに入学しました。当初は不安ばかりでしたが、現在は、放送大学の授業のほか、若者互助サークルの活動や面接学習など充実した学生生活を送っています。



岡部 勉所長



ユニークなサークル活動

「心理・カウンセリング研究会」や全国唯一の「漢詩勉強会」をはじめとした正規サークルのほかに、「合唱愛好会」や「若者互助サークル」、「ミュージカルサークル」などの同好会があり、在学生たちが活発に活動しています。



視聴学習・図書室の復旧

4月14日及び16日に発生した最大震度7の地震により倒れた書架も9月によりやく復旧することが出来ました。全国各地の在学生の方々から、多くの心温まるメッセージや支援物資等をいただき、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。



文化祭

今年の文化祭は、熊本学習センター開設25周年、及び同窓会創立15周年を記念して2日間開催されました。期間中、作品展示の他、初日には岡部洋一学長による特別講演会「私と登山」が、2日目にはサークル発表会などが開催されました。



神奈川学習センター *Report* 若者の集い レポート

神奈川学習センターでは、毎月1回、若い学生が集い活動する会が開催されています。去る5月26日(木)、学習センター主催の横浜港クルージングに続いて「若者の集い」特別版が開催されました。

当日は、他の学習センターからの学生も含め10名の参加者が集まり、神奈川学習センター池田所長、藤田事務長とともに若い学生の皆さんが交流し、大いに盛り上がった一日となりました。



山下公園を散策

池田所長に横浜港の歴史を伺いながら...



横浜港湾近辺を散策

食事の席でも大いに会話が弾みました!



参加者インタビュー



小柳 英介さん

「若者の集い」に参加してから、面接授業などでキャンパスに行くのが楽しみになりました。面接授業で会った同世代の学生を「若者の集い」に勧誘するのも楽しいです。勉強の学びも楽しいですが、レポート・試験・課題と一人では過酷な時間です。その時に他の活動することで、「仲間と遊んで楽しんだり」「楽しい授業の情報」「エキサイティングな授業(笑)」「テスト勉強の仕方」「レポートを参考させてもらったり」と、気分転換したり、卒業に有益な情報を交換できたりするので、是非、全国の同世代の学生の皆さんにもこのような活動をおススメしたいと思います。



多田 みどりさん

年齢が近い仲間がいて、話せる友人ができたことは有難かったです。自分から積極的にやりたい事を投げかければ応えてもらえることも、「若者の集い」の楽しみです。「こうしたい」という方向を皆と話し合いながら、少しずつ進むことができ、学生生活が充実しています。今後も積極的にこの集いを盛り上げていき、全国の若い学生が集まって懇親会ができればいいな、と夢見ています。今後も様々な年代の方とも交流しながら、たくさんのごことを得て「学ぶを楽しむ」を実践していきたいと思っています。



大西 誠治さん

若い学生との交流を深めたい、広げたいと思い参加したのですが、皆といろいろ話すことができ、たくさん笑えて、とても楽しいです。皆が勉強に頑張っている姿を見て、自分も頑張ろうと気合が入りました。全国の若い学生の皆さん! 若者同士、科目の勉強はもちろん、たくさん学んで、思いっきり楽しんで、いろんな経験をして、放送大学ライフをエンジョイしよう!!



荒井 映美さん

学習センターでたまたま目に留まり参加した「若者の集い」ですが、大学を前よりも好きになるきっかけになったし、通信制のイメージも変わりました。こういった企画に積極的に参加することで、よい刺激をもらえます。全国の皆さんもぜひ参加してみてください。



夏川 健太さん

同世代の学生と話す良いきっかけになると思い参加した「若者の集い」ですが、交流が生まれたことで、これからも学び続けてみようという刺激が得られ、孤立しがちな学習も諦めずやってみようという気になりました。また、卒業を目指す若者がこんなにいたのだと実感し、自分一人ではないと思えるようになってから、以前に増してやる気が湧きました。これからも積極的に参加し、放課後のおしゃべりのようなこの「若者の集い」を続けていきたいと思っています。

福井学習センター

circle

オープン プレゼンテーション カフェ

福井学習センター「オープン プレゼンテーション カフェ」（通称：OPC）は、2015年5月に誕生したサークルで、現在20名以上のメンバーが所属しています。このサークルでは、サークル内で互いにプレゼンテーション（発表）を行います。



発表原稿を作成するための学びの活動も行っています。



発表者は、自由に決めたテーマ（例えば、自己紹介、旅行記、

放送大学で学んだことなど）について「パワーポイント」というソフトウェアを使って作成したスライド（写真や文章を使った画面）をパソコンの表示画面を大きく写すプロジェクタで表示しながら説明することが多いです。また、プレゼンテーション後の質疑応答を通して発表されたテーマについて話し合うことによって参加者全員が知見を広げると同時に学びを深めています。



主宰：桶師 治英 さん

サークルは現在、毎月1回、試験期間を除く第4土曜日に活動しています。みなさんも、放送大学で得た知識を基にプレゼンテーションしてみたいはいかがでしょうか？

福井学習センター 〒910-0858 福井県福井市手寄1丁目4-1（アオッサ7F） 電話：0776-22-6361

鳥取学習センター

circle

ジオ部

ジオパークを知っていますか？ 放送大学鳥取学習センターは、山陰海岸ジオパークエリア内に所在し、付近には鳥取温泉や鳥取砂丘があります。

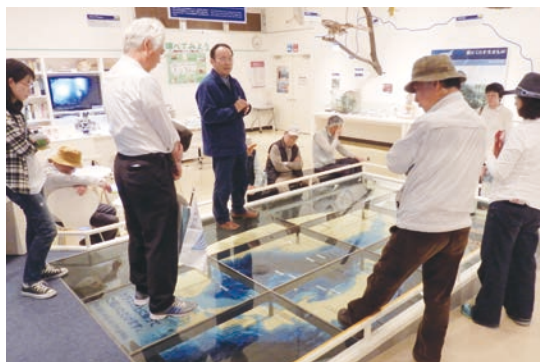
「ジオ部」は、2011年9月21日、日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土・人々の暮らしなどを通して、ジオ（大地の自然・歴史・地史）を学習する目

的で設立しました。

ジオ部は、設立から現在まで10回の野外学習及び座学を行うとともに、鳥取学習センター文化祭などで温度差発電実験や山陰海岸ジオパークエリア内26海岸の浜砂（鳴き砂）・打ち上げ貝の展示などを行っています。鳥取学習センターで学ぶ学生の野外実習、交流の場であるとともに、防災学習、地域発見など実生活に密着した学習も行っています。キャッチフレーズは「ジオ、実感！」



主宰：清水 道代 さん



鳥取学習センター 〒680-0845 鳥取市富安2-138-4（鳥取市役所駅南庁舎5階） 電話：0857-37-2351



私の学び体験

2011年関東東北大地震の直後の4月に放送大学に着任して以来、短い6年間でしたが、学生の皆さん、教職員の皆さんと素晴らしい出会いを持てたことについては、本当に感謝にたえません。特に、大学院や卒業研究のゼミ、全国各地の学習センターの面接授業で、私自身も含め学び合いの体験を持てたことについては、なにより有り難く、楽しいことでした。また、そのような学びのなかで、人のさまざまなことからの学習がむしろ現実の体験の副産物として成立していくという一つの学習観の大切さについて、私自身の理解が深まりました。これは机に向かってする学習が大事でないことを意味するのではなく、体験の中での学

みやけ よしお
心理と教育 教授
人間発達科学プログラム

三宅 芳雄



習を補助、促進するものとしてうまく働かせ、二つの学習を切り離さないということを意味しているのだと思います。

世界がITを基盤とする激しい文化的変化を引き起こしている潮流の中で、教育のあり方も変化しつつあり、放送大学も大きな発展の時期を迎えているのではないかと考えています。私は今後も学習、教育に関わる認知科学の研究を続けて行くつもりです。そのような研究を通して、放送大学の発展にもなにかしらの貢献ができればと思っています。ありがとうございました。

新たな刺激を受けて

平成24年4月に放送大学に着任しましたので、5年間お世話になりました。前任校でも短期間ではありますが、社会人学生の研究指導を担当しておりましたが、放送教材による教育は初めてで自分の声に嫌悪感を抱いたものです。(もっとも担当のディレクター氏いわく、誰でもそうですよとのことですが、できれば最新の高度な編集技術で声を変えてもらいたいものです。)社会人学生の研究指導は初めてではないと述べましたが、その研究テーマは職場や家庭の問題に密着したものが多く、日常

おがわ としき
心理と教育 教授
臨床心理学プログラム

小川 俊樹



生活の問題を研究といった形で考えて行こうとする姿勢にたいへん刺激されました。特に定年の年度に卒研指導

を担当しました脊髄性筋萎縮症という病いを抱えての学生さんの研究意欲には、深く心を揺さぶられました。放送大学の有している役目を再認識したところです。今日、大学の置かれている状況はたいへん厳しいものがありますが、放送大学の一層の発展を祈念しております。

生涯教育の場にて

東工大を定年より2年早く退職してこちらに赴任し、早くも5年が経ってしまいました。この間、今まで以上に充実した日々を送らせていただきました。

各地の学習センターでの面接授業は、放送大生の環境問題への意識の高さを感じました。また、亡くなる直前まで修論に取り組んでおられた高齢の方がいらっしゃられたりと、勇気をいただきました。修論の作成に終わらず、学術誌への審査付論文の投稿や、博士課程への進学など、社会人のパワーを見せつけられました。

ほやの あきら
社会と産業 教授
社会プログラム

梅干野 晃



30数年前、放送大学がまだ試験放送を行っていたころ、恩師清家清先生の「住居論」の授業のお手伝いを

させていただいたことから始まり、10年近く客員教員を務め、そして今回の5年間の専任で、生涯教育を目指した放送大学の今日的意味を改めてかみしめております。

コースの方々ははじめ、皆様にたいへんお世話になりました。ありがとうございました。篤くお礼申し上げます。

放送大学の益々のご発展を心よりお祈り致します。

退任の挨拶

早いもので2005年に放送大学に来て12年が終わろうとしている。山内久明先生の後任だったので当初は英語と地域文化研究を担当したが、数年後には歴史と地域文化研究の担当になった。授業は面白いものを作れたと思うのだが、面接授業やゼミで会った学生さんたちから学ぶことの方が多かった。教師生活の後半は成人教育に関わりたと思って放送大学に来たが、どこまで貢献できたか分からないが、自分では楽しい教員生活が出来たことを学生さんや同僚、有能な事務の人たちに感謝している。わたしがいる間でも放送大学は他の

人間と文化 教授
人文学プログラム

くさみつ としお
草光 俊雄



大学同様に時代の大きな変化の影響を受けてきた。いろいろ改革と称するものが行われてきたが、そのほとんどはわたしに言わせれば改悪だった。だから住みにくい教育機関になってきたな、というのが正直な気持ちである。しかし学ぼうという強い気持ちでやってくる学生さんには是非満足の出来る授業を提供し続けなければならないと思う。そのことを祈念して退任の挨拶とする。有り難うございました。

退任の挨拶

2009年9月にメディア教育開発センターが廃止になり、放送大学に移籍してきてから7年半になります。もともとと同じ構内にあったとは言え、やはり別組織ですので最初はちょっと戸惑いもありました。しかし事務の皆さんの丁寧なご配慮と同僚の先生方のご支援で、なんとか新しい環境にも適応し、これまで色々な仕事をしてすることができました。皆さんにはほんとうに感謝しております。途中、不摂生がたたって中心動脈閉塞症という網膜の病気にかかって片目状態になり、車の通勤をやめて電車にしましたが、正直、片道2時間半はかなりき

情報 教授
情報学プログラム

くろす まさあき
黒須 正明



つかったです。もっとも沢山読書ができました。また、オンライン授業の開始にともなって、さっそく手をあげて感性工学入門を開講させていただきました。遠隔教育、社会人教育という業務は、大変な面もありますが、やりがいのある仕事でした。学生さんも熱心で、教師としてもいい経験を積ませていただきました。これからは隠居せずに物書きを中心に活動しますが、併せて貴学の益々のご発展をお祈りいたします。

感謝いたします

私は昭和61年に放送大学に着任しましたから、31年間勤めたことになります。その間に、3学期制から2学期制になり、全国化が進み、修士課程や博士課程が設けられました。また私自身、群馬学習センターの勤務から本部勤務になりました。その間に天文学関係の放送授業や面接授業をいろいろ担当しました。また、群馬学習センターでは、いくつかのサークルの顧問をさせていただき、楽しみました。

もともと私は、人前で話すのが不得意でした。小・中・高校の同窓会で、このような私が放送大学に勤務していることを知ると、担任だった先生や同級生は、

自然と環境 教授
自然環境科学プログラム

よしおか かずお
吉岡 一男



「お前がよく放送大学に勤めていられるな」と驚かれました。我ながらよく勤められたものだと思います。

長く勤めることができたのは、同僚の先生方や事務の方が温かく接していただいたからだと思います。とりわけ学生の皆さんが、私の講義や卒業研究や修論の指導を熱心に受けていただいたからだと思います。もちろん批判も受けましたが、その多くは建設的なもので、励みになりました。皆さんへの感謝の気持ちで一杯です。長い間ありがとうございました。

韓国語Ⅱ('16) 基盤科目

法政大学教授 うちやま まさはる
(放送大学客員教授) **内山 政春**

放送大学の科目名はご覧のとおり「韓国語」です。一方この言語を「朝鮮語」と呼ぶことも少なくありません。他に「コリア語」や「韓国・朝鮮語」などの名称もあり、本来は文字の名称である「ハングル」が用いられることさえあります。私たち日本語の話し手はこの言語を指すのにさまざまな名称を用いていますが、これらはすべて朝鮮半島を中心に話されている同じ「ひとつの言語」を指しています。「韓国のことばが「韓国語」、北朝鮮のことばが「朝鮮語」」なのでは決してありません。韓国と北朝

鮮を合わせた地域の日本語名称

である「朝鮮」(つまり「朝鮮」は「韓国」を含む)に合わせ、私は教材の中で「朝鮮語」と呼ぶことにしています。

名称についての話が長くなりましたが、この言語は、語順が日本語とほぼ同じであることを含めて文法的な類似点が多く、漢字に由来する多くの単語を日本語と共有するなど、私たちにたいへん親しみやすい言語です。この言語を学ぶことは、私たちの日本語が決して「特殊な」言語でないことを知ることにもつながることでしょう。



内山 政春
客員教授

日本語とコミュニケーション('15) 導入科目

放送大学教授 たきうら まさと
(人間と文化) **滝浦 真人** 放送大学准教授 おおはし りえ
(人間と文化) **大橋 理枝**

うまく行っているときは考えもしないのに、ちょっとギクシャクしただけで悩みの種になれるのがコミュニケーションです。相手の反応が期待とほんの少し違った程度でさえ、人は気に病むことができます。そして、そんな“ほころび”が生じたとき、ふだんは気づかないコミュニケーションの働きが垣間見えます。

授業では、いつもうまく行くとはいかざらないものとしてコミュニケーションを捉えたいと考えました。どういったらそのことを視聴者に伝えられるか？ という悩みがありました。そこで、プロデューサーから勧められたマペット

の表現力を借り、マーくんとエ

りちゃんという分身(?)にも、一緒にコミュニケーションを考えてもらうことにしました。



「日本語」に焦点を当てることも工夫の一つでした。日本語に固有の背景もあれば、現在の日本で考える意義のあるトピックもあります。伊賀上野の多言語環境も取材しています。日本語とコミュニケーションの今、を一緒に考えてみませんか？



大橋 理枝 准教授(右)
滝浦 真人 教授(左)

ダイナミックな地球('16) 導入科目

放送大学准教授 おおもり そういち
(自然と環境) **大森 聡一** 東京大学名誉教授 とりうみ みつひろ
(放送大学客員教授) **鳥海 光弘**

「ダイナミックな地球」というタイトルには、さまざまに変動する地球、という意味に加えて、さまざまな分野の科学が関係し合って生まれる研究の躍動・面白さを感じてもらいたい、という4人の講師の気持ちが込められています。本科目では、基礎から積み上げる底上げ型の構成ではなく、まず全体像を把握することに重点を置きました。地球に関わる現象の時間と空間のスケール(拡がり)で章のテーマをくり、そのスケールで起きるダイナミクス(変動)やその原理を説明する構成とし



大森 聡一 准教授



鳥海 光弘 客員教授



聞き手 村井 美樹さん

ています。宇宙と恒星の形成に関わる100億年スケールの出来事から、恒星における元素の生成、その元素から誕生した地球と生命の46億年の歴史とその原動力、人類が経験した数万～10万年スケールの気候変動、そして私たちが暮らす現在の地球のダイナミクスへと、4人の講師が聞き手の村井美樹さんとともに講義を展開します。現代を生き、地球の未来を考える地球人の皆さんの受講をお待ちしています！

入門微分積分('16) 導入科目

放送大学教授 いしざき かつや
(自然と環境) **石崎 克也**

皆さんは数学の問題文を文頭から読んでいきますか。おそらく、問題文中の鍵となる数式や用語が、真っ先に頭の中に飛び込んできて、難しいとか易しいとか直感的に判断されると思います。もし、その中に皆さんにとって知識の外にある記号や概念があれば、新たに挑戦的学習意欲が湧いてくるでしょう。

この科目は、放送大学導入科目として1変数の微分積分を取り扱っています。微分積分学が、自然科学、社会現象の記述に不可欠なことは言うまでもありません。科



石崎 克也 教授



聞き手 榊菜美さん

目の特徴のひとつ

つは、従来の知識伝達型の定型構造ではなく、各章(回)の冒頭において学習内容を凝縮した課題を出題し、皆さんが、その後に伝達される知識によって課題解決をしていく「課題解決・知識伝達併用型」の構造になっていることです。これは、皆さんに課題解決に参加してもらえるような配慮を試みたものです。もちろん、伝えるべき内容は従来のものと差はありません。聞きての榊菜美さんといっしょに、皆さんも課題解決をしていきましょう。

健康長寿のためのスポーツロジー('15) 専門科目

放送大学教授 たしろ たかお
(生活と福祉) **田城 孝雄** 順天堂大学教授 ないとう ひさし
(放送大学客員教授) **内藤 久士**

スポーツロジー(Sportology)は、新しい言葉でスポーツ(Sport)に、学問を意味する(ology)をつなげた造語で、新しい概念・学問領域です。スポーツロジーは、『スポーツにより、心身の健康を保持増進して、健康で活力に満ちた長寿社会を実現させるための学問』です。日本は2020年に、東京オリンピック・パラリンピックを開催し、また2025年には、団塊の世代が後期高齢者(75歳以上)となり、社会保障制度、特に医療保険・介護保険制度の維持に対する影響が強くなります。運動やスポーツが、健康増進や糖尿病、心



田城 孝雄 教授



内藤 久士 客員教授

筋梗塞、脳卒中、整形外科疾患だけでなく、がんや認知症の予防に与える効果について、科学的に解明します。本科目は2015年に開講いたしました。その後の1年間で、多くの講師が昇進、栄転しました。代表的なものとして、第3回担当の鈴木大地先生が新設されたスポーツ庁の初代長官に就任、第14回担当の中釜斉先生が国立がん研究センター理事長に就任しました。そのほか各講師が、大きく羽ばたいております。

少子社会の子ども家庭福祉('15) 専門科目

関西大学教授 やまがた ふみはる
(放送大学客員教授) **山縣 文治**

「少子化が進むと高齢者も困ることになります」。この言い回しをすぐに納得できる方はどれくらいいらっしゃるでしょうか。「少子化」という言葉は、ほとんどの人が聞いたことがあると思います。では、「少子化」が社会に及ぼす影響は、どのようなものがありますかと質問すると、うまく説明できない人が多いのではないかと思います。あるいは、子どもやその保護者の問題を中心に説明されることが多いかと思います。

少子化が進むと、少なくとも中期的には社会が高齢化することになります。そうすると、年金、医療、介護など、高



山縣 文治 客員教授

齢者がより多くかわる社会保障

の費用が必要になります。社会保障の費用は保険料からだけでなく、税金も投入されています。税金をより多く納入するのは生産年齢層です。少子化は、この生産年齢層がいずれ減っていくということであり、結果として、高齢者の施策を縮小させる可能性が生じることになります。

この科目では、このように、子どもと家庭の福祉問題や施策を多角的にとらえています。さらに、取材等も活用し、皆さんが考える素材を、より多く提供することを意図しています。ぜひ一緒に学習しましょう。

学校と法('16) 専門科目

日本女子大学教授
(放送大学客員教授) さかた たかし
坂田 仰

ピラミッドやタワー等、学校の組み体操事故に対する批判が高まっています。学校が保護者から子どもを託され、教育活動を行う以上、子どもの安全を守ることとは当然といえます。しかし、体育や理科の実験、図工・美術の木彫、家庭科の調理実習等、教育活動の中には事故のリスクが常に存在しています。事故の心配をするあまり全てを止めてしまっては学校教育は立ちゆきません。安全管理、安全指導を徹底した上で、必要な教育活動を維持する。その調和点を模索

することが求められているといえるでしょう。

講義では、4名の講師が分担し、学校事故をはじめ、体罰、いじめといった身近なテーマから、義務教育の存在意義を巡る対立まで、学校現場で生じている多様な“紛争”を分析します。教育を受ける権利をベースとしつつも、日頃あまり考えることのない教育の公共性という観点も加味し、教育紛争の解決に向けた新たな地平を探していただければ幸いです。



坂田仰
客員教授

特別支援教育基礎論('15) 専門科目

筑波大学教授
(放送大学客員教授) あんどう たかお
安藤 隆男

特別支援教育制度の実施から10年が経過します。この間、特別支援教育の対象は年々増加の一途をたどっています。インクルーシブ教育の思潮が広まる中、とりわけ小中学校の特別支援学級や通級による指導の対象が飛躍的に増大しています。特別支援学校等の助言、援助のもと、多様な教育的ニーズがある子どもの特性に応じた指導、支援が適切に行われることが求められているのです。「特別支援教育基礎論('15)」は、インクルーシブ教育システム下に

おける特別支援教育の充実を図るという課題を踏まえ、①特別支援教育の歴史、理念・制度、②特別支援教育の形態及び障害別教育の現状と課題、の二つの視点から構成しました。特別支援教育に関わる基礎的、基本的な内容を概説し、特別支援教育をはじめて学ぶ方にとっても理解できるように工夫しました。特別支援教育は教育の原点であるといわれます。本科目を通じて皆さんとこのことについて共有できることを期待しています。



安藤隆男
客員教授

心理カウンセリング序説('15) 専門科目

放送大学教授
(心理と教育) おおば のぼる
大場 登

今回は、クライアントとカウンセラーの「関わり」に深い関心を寄せる精神分析学派の森さち子先生、ソーシャルなところに関心を向けたロジャーズ後期の姿勢を出発点とする香川克先生と、そしてユング派の訓練を受けてきた私の3人で制作にあたりました。『序説』ですから、心理カウンセリングの「第一歩」です。カウンセリングは個々の生きた人間と関わるものですから、皆さんが実際にカウンセリングに携わろうとされるならば、今後、大学院での実習や演習を含めた長期間の学び・

研修が不可欠となります。他方、『序説』という言葉には、「第一歩」という意味とともに、「本質」「根本」というニュアンスも込められています。今後の長期に及ぶ研修の途上でも、そして、いつかカウンセリングという営みに実際に関わられるようになられても、ときどき、本科目に戻って、「カウンセリングの基本・根本・本質」といったものと改めて向き合っていただくことができるような、そのような『序説』にできたらと思っ



大場登
教授

現代日本の教師—仕事と役割— ('15) 専門科目

早稲田大学教授 (放送大学客員教授) ゆふ さわこ 油布 佐和子



油布 佐和子 客員教授

教師は身近でなじみ深いため、「教師の仕事」に熟知していると、多くの人は思いがちです。しかし、義務教育段階の教師だけでも60万人を超えていることを考えれば、自分の経験だけで教師について語ることは重大な偏りがあると気づくでしょう。

今世紀に入って、教師が働く環境や教員養成のあり方は劇的に変化しています。

日本の教師の長時間労働は、TALIS調査によって広く知られるようになりましたが、市場原理や政治が色濃く反映する改革の中で、教師の勤務環境の困難は益々増大

しつつあります。教員養成も、理念

よりは国立大学の再編というような現実的な要因に、より影響されて進められています。自分の経験や教育の理念・期待だけで「教師の仕事」を理解するのではなく、「教師という職業」をマクロな視野からより多面的・実証的に見ていく必要がここにあります。

教育は、過去と未来をつなぐ仕事です。教師の現状を客観的に把握し、その担い手である教師が自信を持って働けるようになるには何が重要なものを、授業を通じて考えていきたいと思います。

幼児教育の指導法 ('15) 専門科目

白梅学園大学教授 (放送大学客員教授) もろおか あきら 師岡 章



師岡 章 客員教授

3歳から6歳までの幼児をどのように理解し、かわっていきべきなのか。また、どのような力を育て、小学校教育へとバトンタッチしていきべきなのか。こうした問いに対し、本科目は保育現場を対象に学んでいきます。具体的には、『幼稚園教育要領』に示された幼稚園教育の目標を達成するために指導する事項となる保育内容の指導法を取り上げます。また、幼児期の発達特性を踏まえた教育の方法や技術について、情報機器及び視聴覚教材の活用法も含めて学習していきます。

本科目は、『認定こども園法』改

正に伴う「幼稚園教諭免許状や保育士資格の取得特例制度」に基づき、すでに保育士資格を持ち、新たに幼稚園教諭免許状の取得を希望される方を対象に設置されたものですが、そうした方々だけに限らず、幼児期の育ちとその支え方に関心を持つ方々にも楽しく学習できる科目となっています。幼児の世界は奥深く、魅力的ですから、そうした世界に興味・関心を持つ方々にも、ぜひ受講してほしいと思います。

幼児理解の理論及び方法 ('15) 専門科目

千葉大学教授 (放送大学客員教授) なかざわ じゅん 中澤 潤
千葉大学准教授 (放送大学客員准教授) すながみ ふみこ 砂上 史子



中澤 潤 客員教授



砂上 史子 客員准教授

現在、幼児教育は大きく注目されています。「待機児童問題」にみられる保育ニーズの増大だけでなく、幼児教育が生涯にわたる発達に大きな影響を及ぼすことを示す科学的知見などにより、質の高い幼児教育の重要性が指摘されています。「子ども・子育て支援新制度」における「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的提供」のため、幼稚園教諭免許と保育士資格の併有が促進されるなか、本講義は「幼稚園教諭の普通免許状に係る所有資格の期限付き特例」により幼稚園免許を取得しようと

する保育士の皆さんを対象とするものです。

本講義では、幼児教育に不可欠な幼児理解について、基盤となる理論、観察・面接の実際の理解と習得、幼児理解と特別支援教育・幼小接続との関連などを、最新の知見や実際の保育・教育実践の例とともに分かりやすく解説しています。幼児教育の基本となる幼児理解について学びながら、改めて幼児教育の魅力、やりがい、奥深さを発見し、幼児教育の充実につなげていってください!

移動と定住の社会学（'16）

専門
科目

放送大学准教授（社会と産業）^{きたがわ ゆきひこ} 北川 由紀彦 ^{たんの きよと} 首都大学東京教授（放送大学客員教授） 丹野 清人



北川 由紀彦 准教授



丹野 清人 客員教授

人はさまざまな理由で、生まれ育った場所を離れて生活するようになります。自分自身は引越しを経験してなくても、親や祖父母の代で今住んでいる地域に移ってきたという人もいることでしょう。今の日本で暮らす人のうちでは三世代以上前から同じ場所で暮らし続けている人の方が少ないのではないのでしょうか。

産業化を伴った近代化の過程においては、どの国や地域でも、外部から移動してきた人々を労働力として活用してきました。また、産業の新陳代謝の過程では、

新たな産業セク

ターが新しい労働力を求める一方で、時代遅れとなる産業も生き残りをかけて新たな労働力を確保したり既存の労働力を維持しようとしたりします。しかし、そのようにして社会が再生産されていく過程では、自身や家族の再生産が困難な環境にとどめ置かれる人々が絶えず生み出されてもきました。この科目では、こうした人々の労働や生活の具体的な過程に着目しつつ、私たちの生活とそうした人々との関係について考えていきます。

初級簿記（'16）

専門
科目

放送大学准教授（社会と産業）^{さいとう まさあき} 齋藤 正章



齋藤 正章 准教授

唐突ですが、数あるダイエット方法のうちレコーディング・ダイエットと呼ばれるものがあります。この方法は文字通り、食事内容をレコーディング（記録）することで自身の食生活を見直したり、食べる量を控えるという効果が期待されています。このように記録するということは、過去の行動を振り返り無駄を少なくするということにつながります。やがてこうした記録は反復するうちに洗練されていき、技法と呼ばれるようになります。

実は簿記も500年以上前に生み出された経済活動を記録する技法なのです。当時の商人たちは帳簿に

記録することによって経済活動に

おける無駄や非能率が少なくなることに気づき、その技法を簿記と呼び大変大切にしましたのです。

今日、営利・非営利を問わず簿記は組織にとって欠かせないものとなっています。ただし、それは私たちの生活における電気や水道のようにあって当たり前になっているので意識しないと気づくことができません。最近是这样した施設を見学するインフラ・ツアーが流行しているようですが、皆さんも簿記ツアーに参加してみませんか。

地域と都市の防災（'16）

専門
科目

東京大学教授（放送大学客員教授）^{めぐろ きみろう} 目黒 公郎 ^{むらお おさむ} 東北大学教授（放送大学客員教授） 村尾 修



目黒 公郎 客員教授



村尾 修 客員教授

我々は、自然環境に恵まれた日本で、何気なく日常生活を過ごしています。しかし、ある日突然、マグニチュード8の巨大地震に見舞われたり、超大型で猛烈な台風が襲われたりして、当たり前だと感じていた生活が奪われることがないとは言いきれません。こうした災害発生時に、被害を最小限に抑えられるよう、事前に知っておきたいこと、準備しておきたいことがたくさんあります。本講義では、安心・安全を踏まえた都市の形成、過去の災害とそこから得られた教訓、災害に

関する法制度、

災害マネジメントの基本、各種災害（気象災害、地震、津波、延焼火災）の発生メカニズムと対策、土木・建築構造物を強く造ることの重要性、事前準備の重要性、復旧と復興、そして情報とコミュニケーションについて学習します。本講義を受講して、災害をイメージする力（災害イマジネーション）を養ってください。あなたの大切な人を守るために、一緒に学んでいきましょう。

財政と現代の経済社会 ('15) 専門科目

京都大学大学院教授 もろとみ とおる
(放送大学客員教授) **諸富 徹**



諸富 徹 客員教授

消費税を増税すべき否か、急速に増える社会保障費をどう賄うか、そして、先進国で最悪の財政状況をどう改善すべきか、これらの問題が日々、新聞やテレビを賑わせています。財政運営の巧拙は、私たちの生活に大きな影響を及ぼすので、死活問題です。

だからといって、表面的な財政現象だけに目を奪われていては、財政の本質を見失ってしまいます。財政は、グローバル化や高齢化、さらには人口減少など、経済や社会のより広い文脈の中で位置づけてこそ、その真の意味を理解できます。

この点から、本講義では狭い意味での財政学の範囲を超え、財政現象を経済・社会との相互作用の中で理解するよう努めました。さらに、財政学を経済学の一応用分野とするのではなく、制度、歴史、思想を重視している点も、本講義の大きな特色です。

この講義を通じてお伝えしたいのは、財政運営の主体は「お上」としての政府ではなく、私たち自身だという点です。この視点で一緒に財政学を学んでみましょう。それまでとは違った風景が見えてきますよ。

上田秋成の文学 ('16) 専門科目

東京大学大学院教授 ながしま ひろあき
(放送大学客員教授) **長島 弘明**



長島 弘明 客員教授

江戸時代中期の18世紀に、今日「文人」ということばで呼ばれる、ある種のタイプの文化人がたくさん現れます。「文人」は、一つの文学ジャンル・芸術ジャンルに専念するのではなく、数多くの領域にわたって活動する、しかもアマチュアとして活動する多芸多才の人々です。蕪村・平賀源内・柳里恭・木村兼葭堂などのような個性的な「文人」の名が、すぐに思い浮かびます。この授業で取り上げる上田秋成は、小説『雨月物語』『春雨物語』の作者として著名ですが、秋成も

「文人」の一典型であり、活動は俳諧・小説・和歌・狂歌・国学・煎茶等々の多領域にわたっています。秋成の文学を検討するということは、江戸時代の文学の全ジャンルを検討することと同じだと言っても過言ではありません。授業では、時代に先駆けた秋成の文業の全体像を見てゆきますが、その一方で、文学史上で高く評価されている『雨月物語』『春雨物語』の独創性については、詳しく検討することにしたいと思います。

アルゴリズムとプログラミング ('16) 専門科目

放送大学准教授 すずき もとふみ
(情報) **鈴木 一史**



鈴木 一史 准教授

様々な分野でコンピュータが使われ、ソフトウェアが大きな役割を果たしています。ソフトウェアが正しく動作することはたいへん重要です。さらに、ソフトウェアは効率の良い動作をしなくてはなりません。いくら高性能なハードウェアを用いてもソフトウェアに使われているアルゴリズムやデータ構造が不適切なものであれば、ハードウェアの性能を十分に生かすことはできません。本科目では、プログラミング手法や基本的なアルゴリズム

を学習します。すでに、変数、データ型、条件分岐、繰り返し処理、関数、ファイル等、簡単なプログラミングの知識は持っているが、もっと複雑なことにも挑戦したいという方に受講して頂きたいと思います。計算機科学に対する知識を深めるとともに、プログラミングを楽しんで頂ければと思います。まずは、アルゴリズムとプログラミング('16)のシラバスで内容や難易度を確認して下さい。

データの分析と知識発見('16) 専門科目

放送大学准教授 あきみつ としお
(情報) 秋光 淳生



秋光 淳生
准教授

情報技術の進展とともに、データは非常に大きな役割を果たすようになりました。データから情報を抽出するデータマイニング手法を紹介する科目として、4年前に「データからの知識発見」を制作しました。講義では、Rというソフトを用いて分析を行う方法についても説明し、講義用Webサイトを開設し、講義で用いたデータを置いていました。しかし、放送授業で実技を身につけるのは難しいと判断し、手法についてはあくまで紹介という範囲にとどめていました。その後、統合

開発環境であるRStudioも普及

し、初心者がデータ分析の技能を学ぶための土壌が育ってきました。そこで、今回、後継科目である「データの分析と知識発見」では、データ分析を行うということにより重点を置き制作を行いました。放送教材の中では、二人の学生役に参加いただき、講義を受講し演習をしてもらっています。お二人の学習の様子を見ながら、ぜひ実際に手を動かしながら学んでいただきたいと思います。

映像コンテンツの制作技術('16) 専門科目

放送大学教授 こんどう ともつぐ
(情報) 近藤 智嗣



近藤 智嗣
教授

「放送大学は、放送のことを学ぶ大学ですか?」と聞かれることがあります。実は私も放送大学の名前を初めて聞いた時はそう思いました。それから三十数年が経ち、「放送のことも学べる大学ですよ」と答えられるようになりました。それが、この科目「映像コンテンツの制作技術('16)」です。放送大学には放送の設備、専門の技術スタッフが揃っています。この環境を活かして授業を制作しました。授業は、映像を撮影したことが全くない人でも受講できるように工夫しましたが、

放送後にTwitterを見ると、映

像関係の仕事に就かれている方のコメントも多く、プロの方にも評判は良いようです。内容は、映画史から始まり、カメラ、音声、照明の技術的なこと、シナリオの書き方、編集の仕方などの実践的なこと、CGとの合成や3Dなどの応用的なことと映像制作を広く俯瞰できるようにしました。また、専門家へのインタビューも豊富です。ぜひ、制作者の視点に立って映像制作を楽しんでみてください。

植物の科学('15) 専門科目

東京大学教授 つかや ひろかず
(放送大学客員教授) 塚谷 裕一

京都大学教授 あらき たかし
(放送大学客員教授) 荒木 崇



塚谷 裕一
客員教授



荒木 崇
客員教授

昔、植物学はやや趣味的な要素のある学問と見られがちでした。植物好きな人、あるいは自然愛好家がたしなむ学問というイメージもあったと思います。しかし近年、地球規模での気象変動や食糧難、自然環境の破壊など、大きな問題が山積しています。そのいずれもが、植物を対象とした科学知識による解決を待っています。植物の科学は、今や全地球的な、また実生活に関わる問題に立ち向かう強力な知的武器となっています。

そこで本科目では、植物に興味のある人ばかりでな

く、全ての人々

が知っておくべき科学として、植物の科学の基礎を扱っています。そのためにここでは、遺伝子や細胞といったいわゆるミクロの分野から、組織、器官、群集、あるいは動物や微生物との関わり、ひいては進化に至るまでの、植物の全てを理解する手がかりを提供します。

放送教材ではインドネシア・ジャワ島やボルネオ島の自然風景から研究室における最新分析の様子までもロケで紹介します。植物科学の熱い「いま」へようこそ。

非ユークリッド幾何と時空 (’15) 専門科目

はしもと よしたけ
東京都市大学教授
(放送大学客員教授) **橋本 義武**

「三角形の内角の和は180度」という定理がありますが、これは三角形の性質と言うより、三角形が描かれている平面の性質と見ることができます。三角形を球面の上に書いたら、平面の場合と比べて三角形は膨れ、内角の和は180度より大きくなります。逆に、双曲面という、その上に三角形を描くと内角の和が180度より小さくなるような面もあります。このような幾何学は『非ユークリッド幾何』と呼ばれています。中学高校で学んだ、三平方の定理や余弦定

理は、球面や双曲面の上ではどのようなのでしょうか？

双曲面の幾何は、空間方向の他に時間方向を持つ『時空』の幾何の中で実現することができます。『時空』の幾何は、光や光速に近い速度で飛ぶ粒子を考える際に必要になり、重力や宇宙を考えるための準備にもなります。

本講義では、これらのことに、微分・積分をなるべく用いず、指数関数や三角関数を使ってアプローチしていきます。



橋本義武客員教授

2015/16年度 大学院 開設・改訂科目紹介

精神医学特論 (’16)

いしまる まさひこ
放送大学教授
(生活健康科学プログラム) **石丸 昌彦**

ひろせ ひろゆき
横須賀市療育相談センター所長
(放送大学客員准教授) **広瀬 宏之**

精神医学は医学の一分野ですが、最近では多くの人々にとって必要な学問領域となっています。看護師・保健師・薬剤師・作業療法士などの医療関連職種や、福祉・教育の関係者、精神保健福祉士・臨床心理士などの資格取得を目指す人々に必須の科目です。昨今の当事者活動の盛りあがりを背景に、自身や家族の病気や変調について知りたいと望む人々も急増しています。

本科目はそうした幅広い層を念頭に置き、基礎医学の素養がなくても精神医学の全容が一望できるよう工

夫しながら制作

しました。2002年に最初の『精神医学』が開設された後、2006年、2010年につぐ三度目の改訂で誕生した決定版です。15章のうち14章を石丸が執筆し、首尾一貫した内容となるよう心がけました。その代わり放送教材では6人のゲストを招き、さまざまな話題を扱っています。最近とみに重要性の増している児童精神医学は、広瀬が紙数を割いて懇切に解説しました。メンタルヘルスに関心をもつ人々に、広くお勧めできる科目と自負しています。



石丸昌彦教授



広瀬宏之客員准教授

学校臨床心理学・地域援助特論 (’15)

くらみつ おさむ
放送大学教授
(臨床心理学プログラム) **倉光 修**

この科目は、従来の「学校臨床心理学特論」と「臨床心理地域援助特論」を統合したものです。臨床心理学とは、人生におけるさまざまな心理的問題、あるいは、いわゆる「心の傷」や「心の病」の症状ないし問題行動の発生過程や克服過程について、実践を踏まえて研究していく学問であると言ってもよいでしょう。前者はそのアプローチを学校というフィールドにおいて展開する領域であり、後者は地域のコミュニティをその対象として捉えていく領域です。この分野では、苦痛や歪

みを伴う感覚や知覚、イメージや

思考、感情や欲求などを物質科学のように厳密な概念や数値でとらえ、それに基づいて一般的法則を見出していくことが非常に困難です。そこで、本科目では、スクールカウンセラーが絵画や箱庭などを通して子どもたちの内界を推測したり、被災地でリラクセーションを試みたりする様子などをできるだけリアルに描写するよう心がけました。こうした工夫によって受講者の方々の理解がより深まれば幸いです。



倉光修教授

「名誉教授称号授与式」が挙行されました

総務課

6月14日(火)学長室において、昨年度3月末に退任されました五味文彦前教授、近藤喜美夫前教授に対し、岡部学長より放送大学名誉教授の称号を授与しました。今回の称号授与により、平成14年に名誉教授称号の制度ができてから、放送大学名誉教授の称号を授与された方々は33名になりました。

後列左から 来生副学長、小寺山副学長、宮本副学長、吉田附属図書館長、松川事務局長
前列左から 五味名誉教授、岡部学長、近藤名誉教授



既修得単位認定審査等手数料設定のお知らせ

総合戦略企画室

平成29年度第1学期入学者から、既修得単位認定審査等手数料を設定することとなりました。既修得単位認定審査等手数料とは、学部・の全科履修生のうち、1年次入学で他大学、短期大学等において修得した単位の認定を希望される方、又は2年次・3年次に編入学をされる方に対し、認定のための事務作業に対する手数料を頂くものです。何卒、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

平成29年度第1学期入学者からの設定額

全科履修生 ▶ 10,000円

※1年次入学で他の大学、短期大学等で修得した単位の認定を希望する方、又は2年次・3年次に編入学をされる方に限ります。
※放送大学で既に修得した単位については、本手数料の対象外となります。

詳しくは放送大学ホームページ、学生募集要項をご覧ください。

http://www.ouj.ac.jp/hp/o_itiran/2016/280927.html

2016年度(平成28年)学位記授与式について

総務課

2016年度(平成28年)学位記授与式の日程が次のとおり決定しましたので、お知らせいたします。

日時 2017年3月25日(土) 午前11時00分から 会場 NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)

編集後記

ONAIR第123号(!)をお届けします。放送大学はこの4月から新執行部に移行します。特集の座談会で、現執行部の6年間の活動を振り返って、「新カリキュラムへの移行」、「博士後期課程の開設」、そして「オンライン講義の開始」が目指したものを語っていただきました。岡部学長のお言葉をお借りすると、新しいインターネット環境を活用して、これまでの放送大学から「公開大学」(The Open University)にどう脱皮するのか、というのが残された大きな課題のようです。いずれ、このONAIRも名称を変えなければならないかもしれませんね。現執行部の皆様、お疲れ様でした。(編集委員・松井哲男)

放送大学通信 オン・エア 編集委員(2016年度)

委員長	教授 岸根 順一郎
委員	教授 田城 孝雄
	教授 苑 復傑
	教授 児玉 晴男
	教授 近藤 成一
	教授 松井 哲男
准教授	芝崎 順司
オブザーバー	副学長 小寺山 亘
編集事務担当	総務部広報課



放送大学

<http://www.ouj.ac.jp/> ISSN 1343-3369
ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp